

## 第4章 アンケート調査

### 4-1 企業従業員へのアンケート調査

#### 4-1-1 調査概要

##### 目的

企業・労働組合・健康保険組合等の従業員・組合員等を対象として、森林を活用した健康・癒しに係るプログラムの提供のあり方を多角的に検討するために、企業の従業員の「森林セラピー・プログラム」に対するニーズや健康に関する取組み・意向等を調査した。

##### サンプル抽出方法

全国規模で事業所及び従業員を有する企業（A社）の首都圏に居住する従業員と、森林セラピー等が提供される長野県内に事業所及び従業員を有する企業（B社）の従業員に対して、アンケート調査を依頼し、実施した。

##### 配布・回収方法及び配布・回収数

平成19年3月に各社の従業員に、所属部署を經由して調査票を配布し、A社は所属部署経由で一括して調査票を回収し、B社は個人毎に返信用封筒にて調査票を回収した。

【配布数】A社：355人、B社：300人

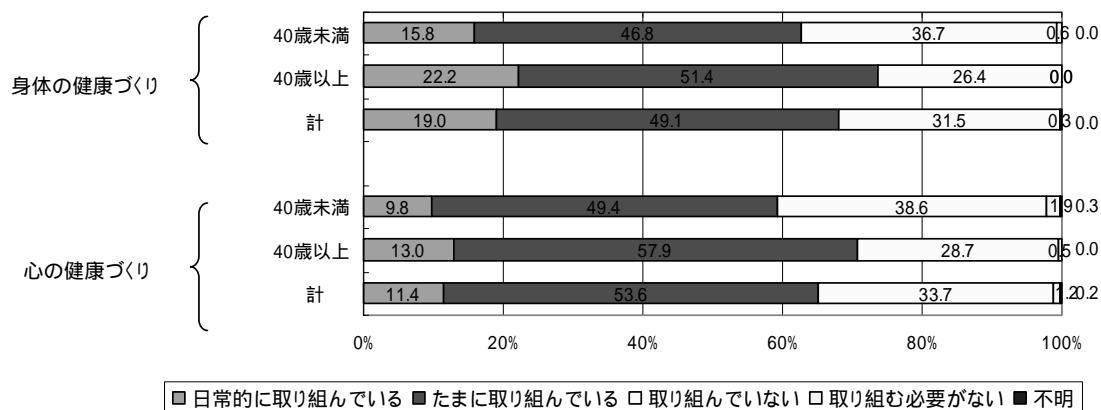
【回収数】A社：303人（回収率85.3%）、B社：234人（回収率78.0%）

#### 4-1-2 調査結果

##### (1) 心と身体の健康づくりの取組み状況

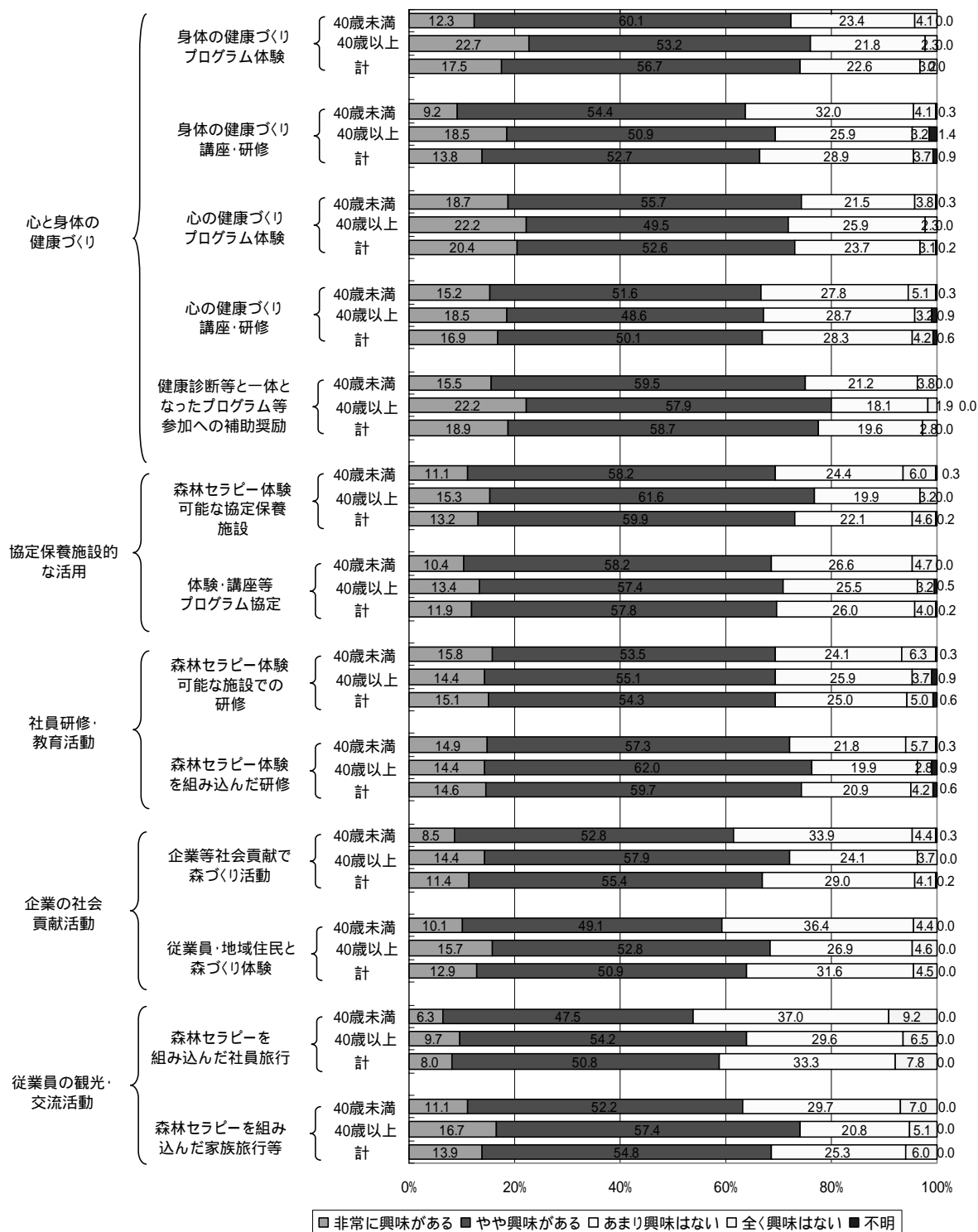
「身体の健康づくり」と「心の健康づくり」の取組み状況を聞いたところ、いずれについても、6割以上の従業員が「日常的に取り組んでいる」または「たまに取り組んでいる」と回答していた。なお、「身体の健康づくり」と「心の健康づくり」を比較すると、前者の割合の方が若干高い傾向がみられた。

図表 4-1 心と身体の健康づくりの取組み状況



回答者の年齢について、「高齢者医療確保法」等で特定健康診査・特定健康指導が行われる40歳を境に、層別で分析を行った。その結果、「身体・心の健康づくり」とともに、「日常的に取り組んでいる」「たまに取り組んでいる」の計が、40歳未満では60%前後であったのに対し、40歳以上では70%以上であり、年齢の高い従業員ほど、積極的に心と体の健康づくりに取り組んでいることが把握された。

図表 4-2 森林セラピーへの興味・関心



(40歳未満 n=316 40歳以上 n=216 計 n=532)

## (2) 森林セラピーへの興味・関心

次いで、森林を活かした健康・癒しのメニューを提供する際に、想定される事業領域として整理された「心と身体の健康づくり」、「社員研修・教育活動」、「保養施設等協定・活用」、「従業員の観光・交流活動」、「企業の社会貢献活動」の各分野に係る取組みについて、従業員の興味・関心の度合いを聞いた。(図表 4-2)

その結果、最も興味・関心が高かったのが、「健康診断」や「人間ドック」と一体となって、診断結果を参考に、森林セラピー効果を活かしたプログラム体験や講座・研修への参加に対して補助・奨励を行う「健康診断等と一体となったプログラム等参加への補助奨励」であり、「非常に興味がある」と「やや興味がある」を合わせて 77.6% を占めた。また、「森林セラピー体験を組み込んだ研修」、「森林セラピー体験可能な協定保養施設」についても「非常に興味がある」と「やや興味がある」を合わせた割合は高く、それぞれ 74.3%、73.1% となっている。

一方で、「森林セラピーを組み込んだ旅行」や、「身体の健康づくり講座・研修」と「心の健康づくり講座・研修」の講座・研修については、興味・関心が低い傾向に見られた。

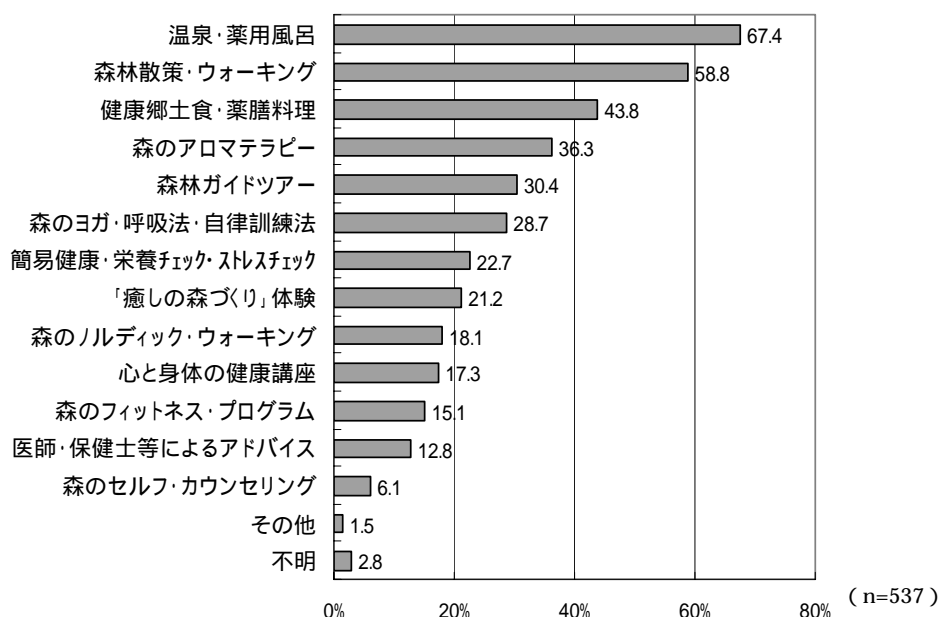
なお、回答者の年齢を 40 歳を境に層別で分析した場合、全体的には 40 歳未満より 40 歳以上のほうが、「非常に興味がある」と「やや興味がある」を合わせた割合が高く、年齢の高い従業員ほど、興味・関心の度合いが高いことが把握された。但し、「心の健康づくり」や「社員研修・教育活動」に係る領域については、年齢層の大きな差異は見られなかった。

## (3) 森林セラピー・プログラムへの興味

具体的に、どのような森林セラピー・プログラムについて参加意向があるかを聞いたところ、「温泉・薬用風呂」が最も高く、ついで「森林散策・ウォーキング」、「健康郷土食・薬膳料理」(マクロビオティック)、「森のアロマセラピー」(芳香浴)、「森林ガイドツアー」と続いた。上位の「温泉・薬用風呂」と「森林散策・ウォーキング」は、いずれも半数以上が興味を示している。

一方で、「森のセルフ・カウンセリング」や「医師・保健士等によるアドバイス」、「森のフィットネス・プログラム」については、興味を持っている従業員は少ない傾向にあった。

図表 4-3 森林セラピー・プログラムへの興味



## 4 - 2 企業・健康保険組合担当者へのアンケート調査

### 4 - 2 - 1 調査概要

#### 目的

企業・健康保険組合等の各種事業において、従業員・組合員等を対象とした「森林セラピー・プログラム」の提供の可能性を検討するために、企業・健康保険組合のニーズについて、企業の福利厚生事業担当者及び健康保険組合の保健事業の担当者の回答内容に基づき把握する。

#### サンプル抽出方法

##### 【企業】

『四季報（2006年秋号）』（東洋経済新報社発行）において、従業員数1,000名以上の企業（上場・未上場いずれも）を抽出。

##### 【健康保険組合】

長野県内における今後の「森林セラピー」の取組を検討する観点から、東京都、神奈川県、愛知県の三県の健保連が公表している健康保険組合を抽出

#### 発送・回収方法及び発送・回収数

平成19年3月、以下の企業及び健康保険組合に調査票を発送した。

【配布数】企業：1398社 健康保険組合：822組合（渡橋、神奈川、愛知）

【回収数】企業：112社（回収率8.0%）、健康保険組合：180組合（回収率21.9%）

### 4 - 2 - 2 調査結果

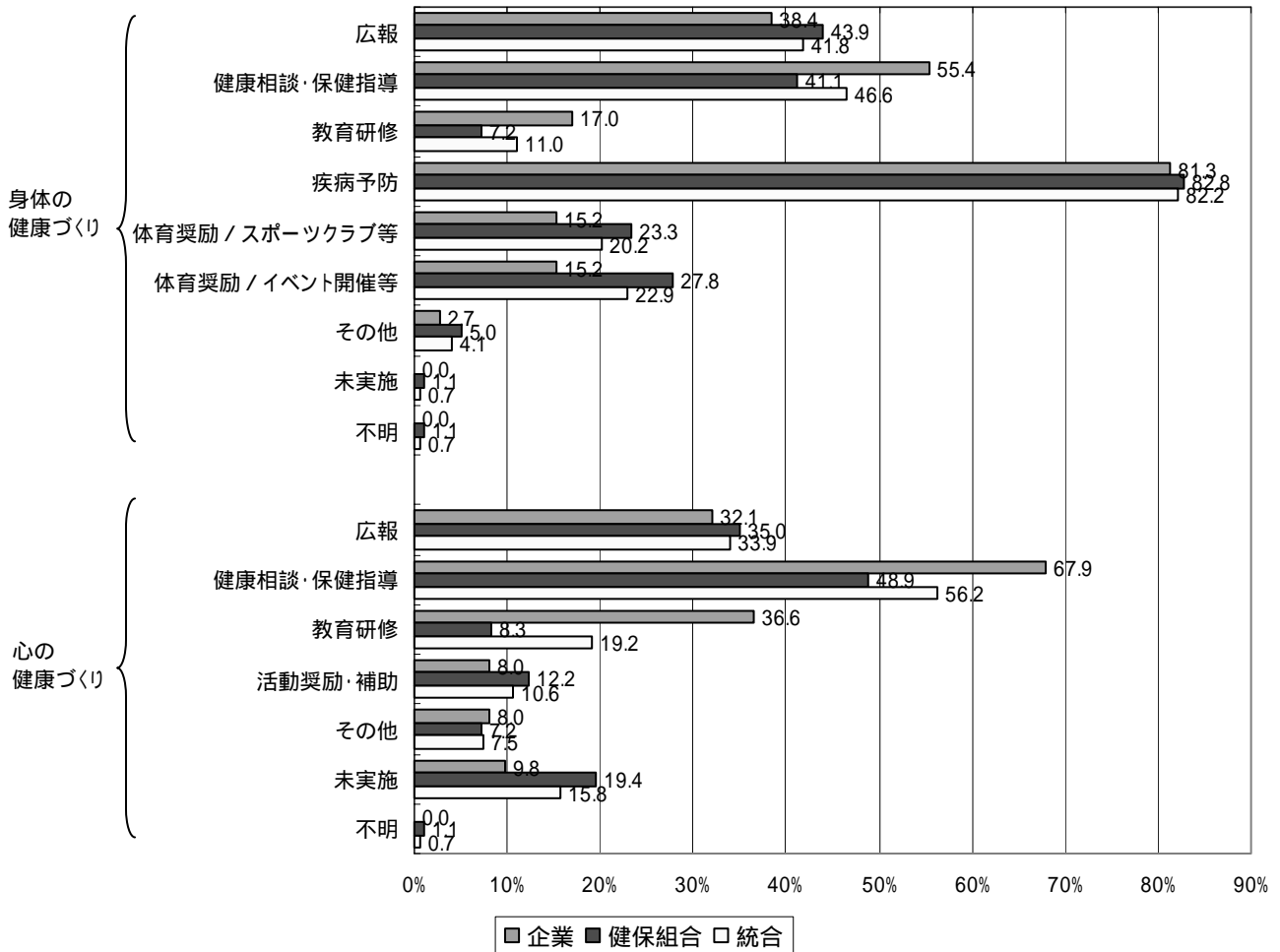
#### (1) 「心と身体の健康づくり」の取り組み状況

企業及び健康保険組合の保健事業の担当者に、従業員、組合員とその家族向けの「身体の健康づくり」、「心の健康づくり」に係る取り組みとして、現在どのような事業を実施しているか聞いたところ、以下の傾向がみられた。

まず、「身体の健康づくり」に関しては、企業、健康保険組合ともに「疾病予防」が圧倒的に大きく（企業81.3%、健康保険組合82.8%）、次いで「健康相談・保健指導」（企業55.4%、健康保険組合41.1%）、「広報」（企業38.4%、43.9%）と続いた。企業と健康保険組合で差がみられたものとしては、企業で割合の大きかったものは「健康相談・保健指導」、「教育研修」があり、一方健康保険組合で割合の大きかったものは「体育奨励/スポーツクラブ等」、「体育奨励/イベント開催等」があげられた。

「心の健康づくり」に関しては、企業、健康保険組合ともに、「健康相談・保健指導」が最も大きな数値を示した。企業では、「教育研修」（38.8%）、「広報」（32.1%）が、ほぼ同じ割合で続くが、健康保険組合では、「教育研修」が12.2%と小さかった。また、企業、健康保険組合ともに、「身体の健康づくり」と比較して未実施の割合が大きい傾向がみられた。

図表 4-4 「心と身体の健康づくり」の取り組み状況



(企業 n=112, 健康保険組合 n=180, 統合 n=292)

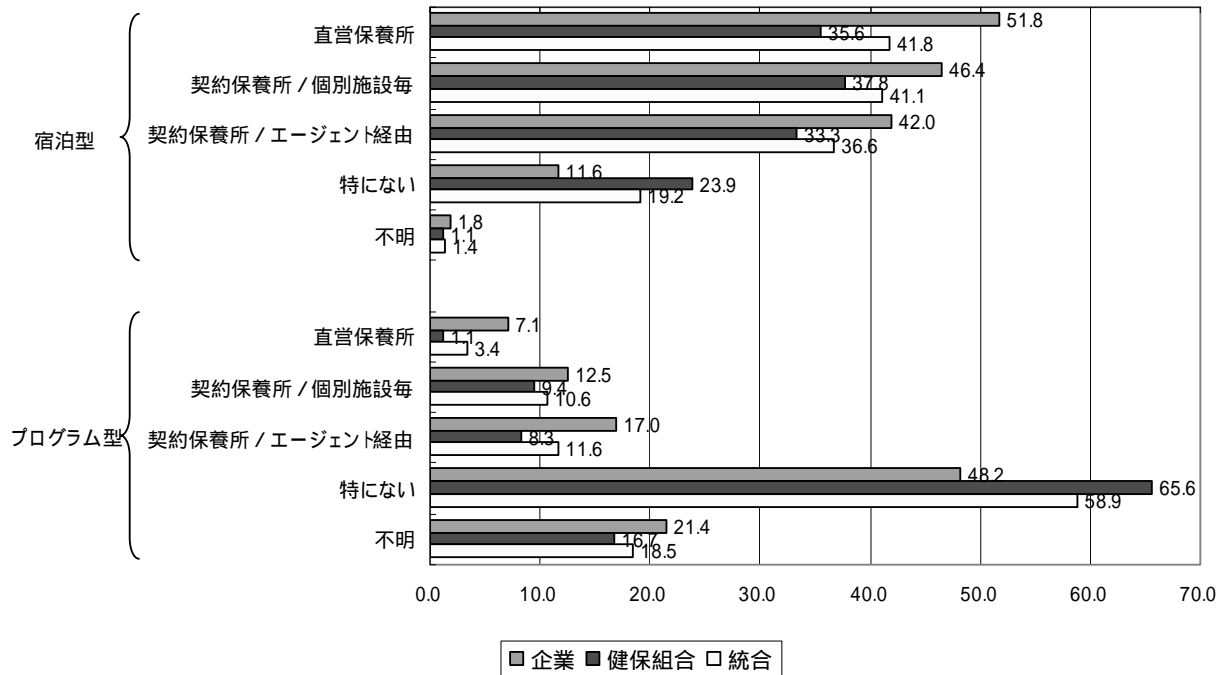
(2) 保養施設の保有形態

企業及び健康保険組合が保有・契約する保養施設の形態に関して、以下の傾向がみられた。

宿泊型については、企業が保有・契約する保養施設は「直営保養所」の割合が 51.8%と最も高く、「個別施設毎の契約保養所」が 46.4%、「エージェント経由の契約保養所」が 42.0%と続いた。一方、健康保険組合が保有・契約する保養施設は、「個別施設毎の契約保養所」の割合が 37.8%で最も高く、「直営保養所」は 35.6%にとどまった。また、「特にない」との回答も 23.9%と多かった。

プログラム型については、企業、組合ともが保有・契約する保養施設は、「特にない」との回答が大きな割合を示した(企業 48.2%、健康保険組合 65.6%)。なお、企業では「エージェント経由の契約保養所」が 17.0%と比較的多く見られたが、「個別施設毎の契約保養所」、「直営保養所」は、それぞれ 7.1%、12.5%と、宿泊型での数値と比べて圧倒的に小さい傾向がみられた。

図表 4-5 保養施設の保有形態



(企業 n=112, 健康保険組合 n=180, 統合 n=292)

### (3) 森林セラピーへの興味・関心

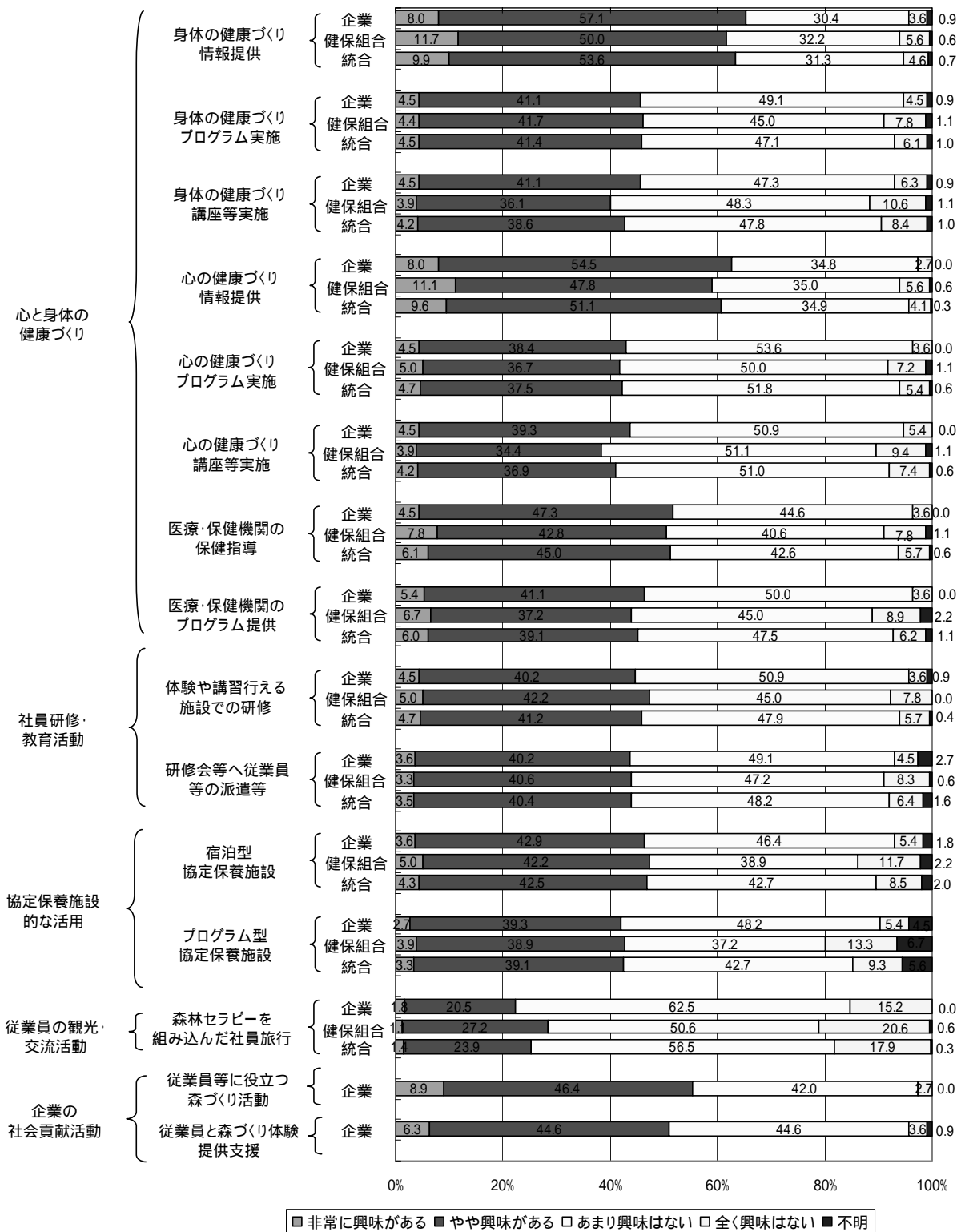
従業員向けの調査と同様に、森林を活かした健康・癒しのメニューを提供する際に、想定される事業領域として整理された「心と身体の健康づくり」、「社員研修・教育活動」、「保養施設等協定・活用」、「従業員の観光・交流活動」、「企業の社会貢献活動」の各分野に係る取組みについて、従業員の興味・関心の度合いを調査したところ、以下の傾向が見られた。(図表 4-6)

全体的に、企業の担当者の回答結果と健康保険組合の担当者の回答結果に大きな差は見られず、「森林セラピーを組み込んだ社員旅行」を除いたほとんどの項目で、「非常に興味がある」、「やや興味がある」を合わせた割合が4割から6割となっている

「心と身体の健康づくり」分野の「身体の健康づくり」と「心の健康づくり」については、いずれも情報提供に対する興味・関心が高く、それぞれ「非常に興味がある」と「やや興味がある」を合わせると6割近い割合となった。また、「医療・保健機関の保健指導」についても興味があるという回答が比較的高い割合を示しており、企業・健康保険組合いずれも5割を超える希望が見られた。また、企業のみを対象項目としているが、「企業の社会貢献活動」分野においては、「従業員等に役立つ森づくり活動」及び「従業員と森づくり体験提供支援」は、いずれも5割以上が興味・関心を示す結果が見られた。一方で、「従業員の観光・交流活動」分野の「森林セラピーを組み込んだ社員旅行」のみ、企業、健康保険組合ともに3割に満たない低い数値となった。

企業と健康保険組合の回答結果の傾向の差異を分野別に見てみると、「心と身体の健康づくり」分野については、企業の方が高い興味を抱く傾向を示しており、一方で「社員研修・教育活動」分野、「保養施設等協定・活用」分野、「従業員の観光・交流活動」分野は、若干ではあるが、健康保険組合の方が高い興味を抱く傾向が見られた。

図表 4-6 森林セラピーへの興味・関心



(企業 n=112, 健康保険組合 n=180, 統合 n=292)

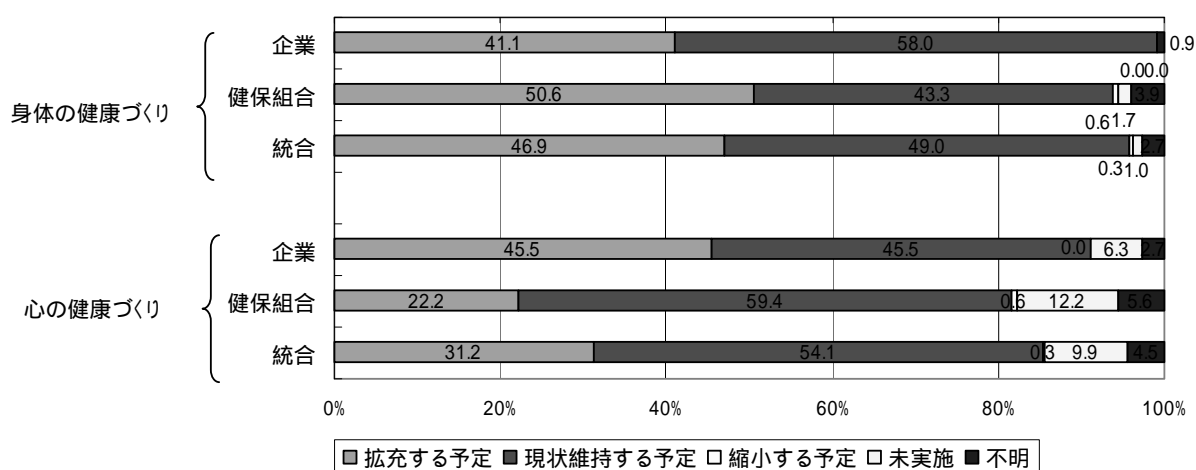
(4) 今後の展開に関する意向

企業及び健康保険組合の保健事業の担当者に、従業員、組合員とその家族向けの「身体・健康づくり」「心の健康づくり」に係る取り組みとして、今後どのような展開を考えているのかを聞いたところ、以下の傾向がみられた。

「身体の健康づくり」と「心の健康づくり」を比較すると、企業、健康保険組合とも「身体の健康づくり」のほうが、「拡充する予定」の割合が大きい傾向にあった。

企業、健康保険組合を比較すると、「身体の健康づくり」については、「拡充する予定」と答えた企業は41.1%、健康保険組合は50.6%となり、健康保険組合のほうが積極的に拡充を目指していることが把握された。一方、「心の健康づくり」については、「拡充する予定」と答えた企業は45.5%、健康保険組合は22.2%と、企業のほうが積極的に拡充を目指しており、「身体の健康づくり」とは異なった傾向が把握された。

図表 4-8 今後の展開に関する意向



(企業 n=112, 健康保険組合 n=180, 統合 n=292)

(5) 「心と身体の健康づくり」を「拡充する予定」と回答した企業・健康保健組合の興味・関心  
 身体の健康づくり

今後の展開で「身体の健康づくり」の取り組みを「拡充する予定」と回答した企業の、「身体の健康づくり」に関する興味・関心の対象は、「情報提供」に対しては興味があると答えた企業は75%、健康保険組合でも80%近くあり、「プログラム実施」や「講座等実施」と比較して大きな割合を示していた。但し、「プログラム実施」や「講座等実施」は約半数近い企業・健康保険組合が興味を有しており、今後の企業・健康保険組合等を対象とした取組みの可能性が想定された。(図表 4-9)

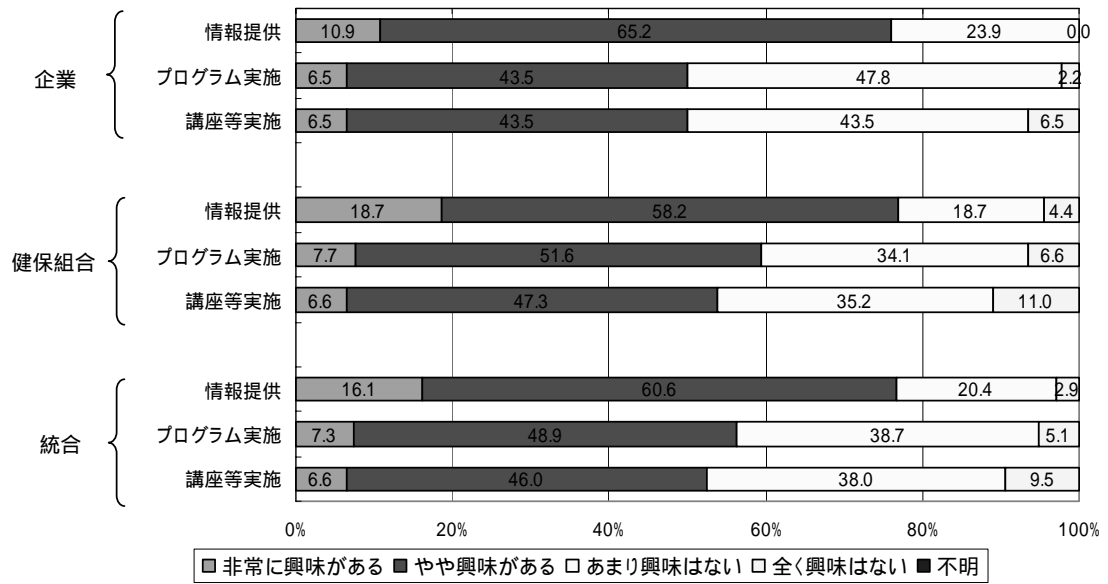
心の健康づくり

同様に、今後の展開で「心の健康づくり」の取り組みを「拡充する予定」と回答した企業・健康保険組合の「心の健康づくり」に関する興味・関心の対象は、「情報提供」に対して「非常に興味がある」、「やや興味がある」と答えた割合が8割を超え、「プログラム実施」や「講座等実施」と比較して大きな割合を示した。また、「プログラム実施」や「講座等実施」については、興味関心を6割の企業・健康保険組合が寄せており、これらの活用の可能性が推察された。(図表 4-10)

なお、「身体の健康づくり」と比較すると、全体的に高い数値を示しており、「心の健康づくり」の方が、より興味・関心を寄せている企業には導入の可能性が高いことが推察された。

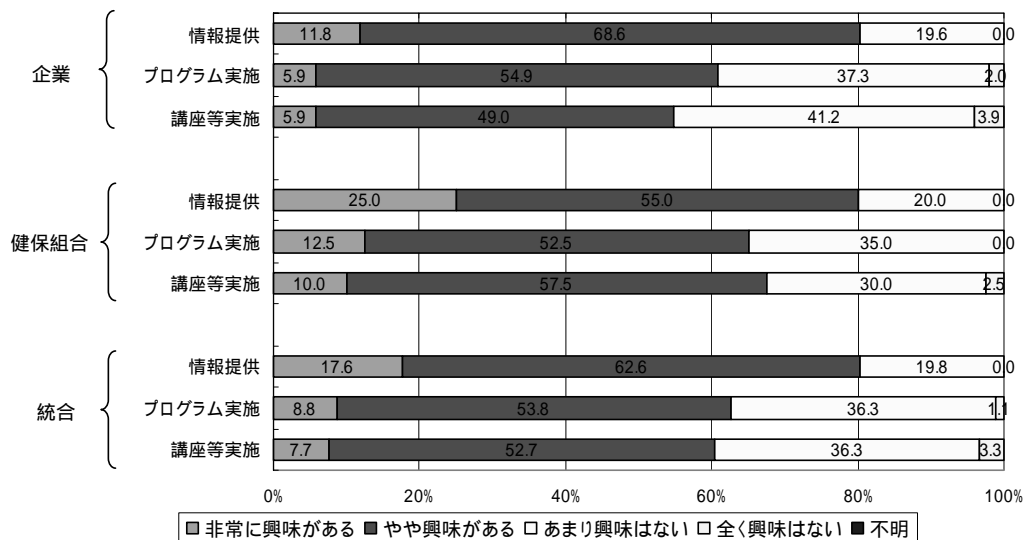


図表 4-9 「身体の健康づくり」を「拡充する予定」と回答した企業の興味・関心



(企業 n=46 健康保険組合 n=91 統合 n=137)

図表 4-10 「心の健康づくり」を「拡充する予定」と回答した企業の興味・関心



(企業 n=51 健康保険組合 n=40 統合 n=91)

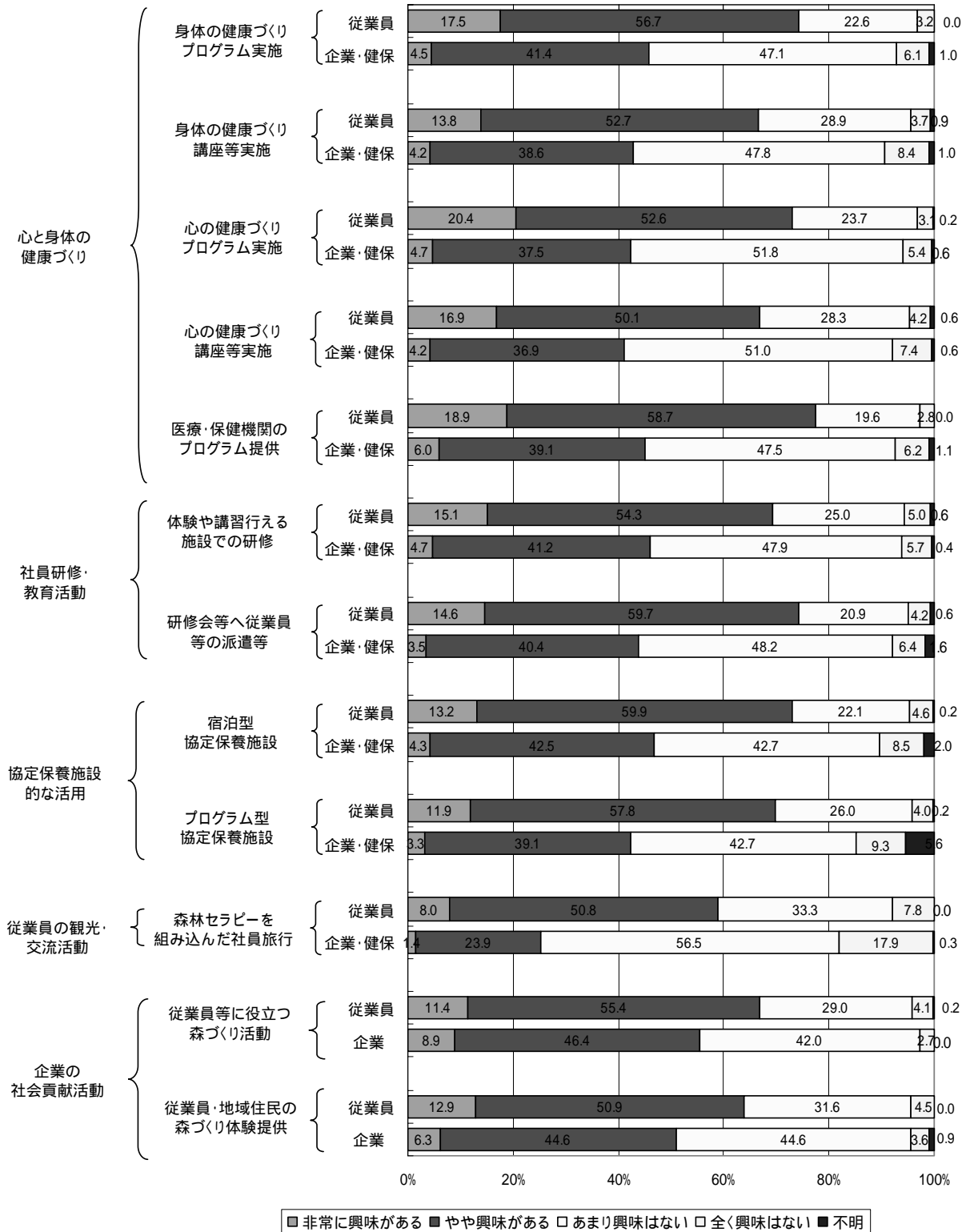
#### 4 - 3 従業員と企業・健康保険組合担当者の比較

森林を活かした健康・癒しのメニューを提供する際に、想定される事業領域として整理された「心と身体の健康づくり」、「社員研修・教育活動」、「保養施設等協定・活用」、「従業員の観光・交流活動」、「企業の社会貢献活動」の各分野に係る取組みについて、従業員と企業・健康保険組合担当者の興味・関心の度合いを比較したところ、以下の傾向が見られた。(図表 4-11)

全体を概観すると、全ての分野において、企業従業員のほうが、企業・健康保険組合担当者より、「非常に興味がある」、「やや興味がある」を合わせた割合が多くなっており、企業従業員の森林セラピーへの興味・関心の度合いが、企業・健康保険組合担当者より相対的に高いことが把握された。

なお、割合の差については、多くの項目で 25%前後が見られたが、「心と身体の健康づくり」分野の「医療・保健機関のプログラム提供」と、「従業員の観光・交流活動」分野の「森林セラピーを組み込んだ社員旅行」については、それぞれ 32.5%、33.5%の差が見られ、企業従業員と、企業および健保組合担当者の間での興味・関心の度合いに特に大きな差があることが把握された。一方、「企業の森づくり」分野においては、従業員と企業・健康保険組合担当者の差は少ない特徴が見られた。

図表 4-11 森林セラピーへの興味・関心（企業従業員と企業・健康保険組合担当者の比較）



（従業員 n=532，企業・健保 n=292（企業の社会貢献活動については、企業 n=112））  
 なお、図中の項目名は、企業・健保担当者へのアンケート調査のものに便宜的に統一した。